

## BY(びーわい)スタンプ 第8回 運営会議 要旨(速報版)

日 時：平成 17 年 7 月 27 日(水) 14:00 ~ 17:00

場 所：機構 4 階 会議室

参加者：

区分	団体名	代表者	備考
運営委員	天の川を清流にする会	園田洋子	欠席
	猪名川・神崎川水質研究グループ	中本二郎	
	鶴殿クラブ	江口 聡	欠席
	ひらかた星垂の会	赤城正幸	欠席
	「ええことネット」交野ケナフの会	松山岩脇	欠席
	川の会・名張	川上 聡	欠席
	近木川流域自然大学研究会	橋本夏次	
	子どもと川とまちのフォーラム	小丸和恵	代理
	東近江水環境自治協議会	丹波道明	
	琵琶湖・淀川水系を考える会	川崎伸次	代理
	水と文化研究会	小坂育子	欠席
	淀川愛好会	濱 和義	
近畿水の塾	澤井健二	欠席	
事務局 (機構)	青木局長、河野次長、森本部長、角江部長、 桑村部長、北澤部長、芳谷研究員、山下事務職員		

### 議題

1. BYスタンプラリーの状況
2. 前回会議での意見を踏まえた対応について
3. 現場交流会について
4. BYQ ネットワーク交流会について
5. その他

### 1. BYスタンプラリーの状況

事務局より、1. BYスタンプラリーの状況・2. 前回会議での意見を踏まえた対応について(P.1~14)を説明。

#### (1) ルール改正案(アンケートで寄せられた各種意見に対して)

イベント参加時に台紙を忘れた人への対応

中級以上にチャレンジしている参加者が、参加時に台紙を忘れた場合、主催者は初級台紙にスタンプを押印し、参加者は事務局に「初級台紙」と「中級台紙」の2枚を送付することでクリアとする。

スタンプ台紙紛失した人への対応

参加者が事務局へ連絡して、事務局より台紙を再発行する。

イベント情報の参加者への発信について

メールでの資料希望者に対し、各月発行のかわら版をメールで送付する。

以上のルール改正については、参加者や協賛団体にかかわら版やホームページで告知する。

同一団体、同一台紙への複数押印や、施設の複数押印への対応

ラリーの目的を踏まえ、現行ルールを適応する。

#### (2) チャレンジ7(ラストステージ)の対応

事務局から提示した「6流域×1グループ(NPO等市民団体のみ)」案に対し、

- ・流域別でスタンプを集めるのは、かなり困難である。
- ・6流域の中で、1個だけ流域内の施設スタンプを押印しても良いのではないか。

等の意見が出たが、事務局提示案を採用することとする。

ラストステージをクリアした人達への賞状は、紙で出来た賞状（認定証）では重みが無い。銅版、アクリル板などに認定書を彫り込んでも良いのではないか。大きさは、小さめの方が家に飾って置きやすい。

次回会議に仕様案を提示する。

「認定証」以外の文言、例えば「琵琶湖・淀川賞」等を考えてはどうか。文面も今後益々各種活動に参加してもらえるようなものにしてはどうか。

次回会議に仕様案を提示する。

台紙表紙に、「ラストステージ」等の文言を追記する。

(3) 中級以上のクリア人数の強化対策について

上級チャレンジの方々に体験レポートなどを書いてもらったり、協賛団体の活動レポートなどをかわら版などに載せたりして、参加者に協賛グループの活動状況を伝える。

アンケート回答者に対しアンケート結果を送付する。その時に、今後スタンプラリーに参加してもらえる様な文面を同封する。参加者へ気持ちを伝えるには、手書きの手紙を添えることで効果があるのではないか。

(4) かわら版、ホームページ

参加者やクリア人数の掲示について、「参加者人数」と「初級クリア人数」の情報までとし、「次のステップにチャレンジしましょう」等の文言を併記する。

活動イベントスケジュールは2か月分を重点的に載せる。

協賛グループの活動レポートなどを載せてはどうか。

(5) その他

ポスター・チラシのロゴ・キャッチフレーズは、「・・・活動に参加して、琵琶湖・淀川を始め身近な河川を美しくしましょう」とする。

チラシに使用する写真と説明文の構成は、当該団体と十分調整すること。

### 3. 現場交流会について

事務局より、3.現場交流会について（P.15）を説明し、意見を求めた。

(1) 秋季の現場交流会について

子供が中心に活動しているイベントへの参加を検討したが、現時点では該当するイベントがないため、実施を見送るものとする。

(2) 冬期の現場交流会について

12月11日に行なわれる「川の会・名張」主催のイベント（第10回名張川と歩こう会）に参加し、イベント終了後に拡大運営会議の場を設ける。

参加者は運営会議メンバー+ とし、他の協賛グループへの案内は別途行わない。

### 4. BYQネットワーク交流会について

事務局より、4.BYQネットワーク交流会について（P.15）を説明し、意見を求めた。

開催時期は、できるだけ早い時期（2月等）に行えるよう調整を計りたい。

実施内容は、毎年同じ内容（各協賛グループの活動紹介をベース）を繰り返し積み重ねていくのも良いのではないか。

毎年開催場所を変えて（例：流域各地）開催する案もある。

事務局でたたき案を作成し、次回会議にて協議を行う。

### 5. その他

次回運営会議：10月5日（水）14時～

以上